

2022年アカプルコ市での活動報告

2022年12月20日

1 活動の期間

平成4年10月29日から平成4年11月29日

2 活動の目的

今回の活動は、コロナ過の2年間の空白を挽回するため市内の学校を積極的に回り安全意識の啓発活動と空白の2年間に市警察の人事異動に伴う新たな人間関係の構築を大きな目的とした。

アカプルコ到着直後体調の異変に気づきPCR検査をしたところ陽性反応が出て、下宿で二週間余り自主待機。その間に二回検査をしたところいずれも陰性反応がでて、活動開始のスタートを切った。なお、自主待機中もアカプルコ市警察の Lic. Brenda Monge Soto 女史と電話などで連絡を取り続けた。



丁度アカプルコ市は市を挙げて*NAO の記念行事の準備中。そこに日本人が NPO 活動で訪れたので、市側としては同じアジアの日本もガレオン貿易とは無関係ではないと考え、大歓迎されました。今回の活動の大きな目的は、前記の通りでさらに言えば今年度作成した歩行者マニュアル(電子版)の贈呈も大きな目的の一つでした。

*マニラ・ガレオン(またはアカプルコ・ガレオン)は、[スペイン](#)の貿易船。年に1回か2回、[太平洋](#)を渡り[フィリピン](#)の[マニラ](#)と[ヌエバ・エスパーニャ](#)(現在の[メキシコ](#))の[アカプルコ](#)を往復した。名称は[ガレオン船](#)の出港地によって変わる^[1]。積み荷の大半は中国産であったため中国船(ナオ・デ・チーナ)と呼ばれることもあった。[1565年](#)から[19世紀](#)初頭まで250年に渡り存在し、[メキシコ独立戦争](#)と[ナポレオン戦争](#)によって終焉を迎えた。この貿易は「ガレオン貿易」もしくは「アカプルコ貿易」と呼ばれた。(参考 Wikipedia から引用)

3 交通安全教育活動

- (1) 11月14日市警察本部警察官教育課で勤務交代時の通告時間をもらい安全教育指導について新しく改定したアカプルコ版の歩行者マニュアルの内容について30分ほどレクチャーしたのち運転免許課などを訪問したが、コロナ前と同様免許取得

のために集まった人でごった返していた。



レクチャー風景



安全教育担当官の皆さん方

11月14日市警察本部では15年前のJICA時代からの友人も沢山在籍し久しぶりの再会の喜びを分かち合った。また交通安全教育の担当であり、私のとの連絡の窓口である Lic. Brenda Monge Soto 女史を訪れた。その後フェルテ サンデイエゴの隣にある運転者教育課に案内された。公共安全審議官の Lic. Dulce Arciniega 女史と面会し、訪問の目的、新しい歩行者マニュアルの電子データの寄贈について説明。アカプルコ市長との面会を調整して頂いたが、希望は叶わなかった。



安全教育課の皆さん(柄模様の服装の人が、窓口となってくれた Brenda 女史)

この日面会したのは、

- Lic. Dulce Arciniega 女史 役職は Consejo de Seguridad Publica.治安担当審議官

- Profesor. Fredy Armando Nieves 役職は Jefe del Departamento de Servicios Culturales。文化担当部長



中央が Lic. Dulce Arciniega



左が Profesor. Fredy Armando



また今回の訪問では、下記 2 名の方々にも面会した。

- Lic. Marca Valdez 女史 役職は Coordinadora de Agenda。市長日程調整官
- Lic. Daniel Castillo 氏。役職は Jefe de Oficina de Alcaldesa。市長室長

- (2) 11 月 15 日夕方 5 時からの NAO の記念行事が Av.Costera Miguel Alemán 通りを挟んだ Fuerte Sandiego の反対側にある Parque de la Reina で開かれ、これに一般者として参加。この日の参加者は 1,500 人ほどで、一週間毎晩バンド演奏会などが行われ多くの人を訪れた。おりしも隣の埠頭には外国の客船が停泊していることから、夜が更けるにしたがって観光客が集まり盛り上がりました。



(3) 市警察から翌日 16 日午前 9 時にサンデイエゴ要塞に来るよう連絡が入りそこで行われる NAO の記念行事に参加し、来賓として挨拶してくださいとのこと。

サンデイエゴ要塞の会場には近くの小学校から動員された小学生約 700 人がプリントされた歩行者マニュアルを持って参加していた。開会に当たっては国歌斉唱に続き、海軍の儀仗兵による国旗掲揚行進が行われ、その後来賓の挨拶が続いた。



待機する海軍の儀仗兵の皆さんマニュアルを読む生徒たち



開会を待つ来賓者の皆さん(左端二人目が小生)

挨拶後、式典を中座し車で 20 分ほど離れた Escuela Primaria Matutina Maria Orozco de Marron 小学校での集会に参加した。この会場でも参加生徒約300人の熱烈な歓迎を受けた。ここでも歩行者マニュアルのプリントが配布されていた。この小学校は、二部制で午前の部は先ほどの名前の学校で、午後の部は、Escuela Salvador Varela と名前が変わります。ここで挨拶を兼ね歩行者マニュアルの広報に努めた。



生徒と先生方

左から Lic.dulce、学校長、小生、安全教育担当警察官



歓迎の挨拶をする生徒



行事に参加した生徒たち

この学校の生徒さんから日墨親善の絵手紙を沢山頂きました。大変心温まる絵手紙で私達にとって貴重な宝物となり大切にしたいと思います。



上の写真はいずれも手紙の表書き。三つ折りされた絵手紙の裏側は心温まる言葉がありました。

- (4) 11月 17日ゲレロ州の州都庁舎で働く Dra.Libertad 女史から運転者マニュアルの再編修の話が入り、メキシコ市で打ち合わせすることになり、急遽メキシコ市に向かった。活動の最後を飾るにふさわしい提案を受け、今後の活動の一つの課題を頂きました。

Dra.Libertad 女史とは、JICA 時代にアカプルコ市内の高校生による模擬国連会議の指導教員として生徒を指導していた頃からの顔見知りで女史によれば州庁でも当法人の活動は知られているようで運転者マニュアルの改訂版を漫画形式で作成したいので協力願えないかと提案された。こちらとしても渡りに船なので協力の方向で前向きに検討したい旨伝えた。今まで作成した歩行者マニュアルのデザイナーは地元アカプルコ出身の人なのでこの点でも条件に合うらしく、法律の解釈などは州側で行い、デザインは当法人がお願いしている歩行者マニュアルのデザイナーを候補者とし、その他のことは日本に持ち帰って検討。できるだけ早く回答したい旨伝えた。また詳細についてはその都度お互いに意見交換をしながら詰めて行くことで合意した。

- (5) その他

二年間のブランクがあったが、JICA 時代に知り合った警察官や職員と 10 数年ぶりに偶然再会した。これまで NPO 法人の活動を地道に続けたお陰で個人的な繋がりが出来上がって憶えていてくれたことがことに感謝したい。



また、今回の活動について、facetime に私の発言に賛同した記事が載っていたので参考に掲載します。



アカプルコ公共安全局として感想を述べると日本から来た交通安全の専門家 ikuro Yogo 氏は道路には国それぞれの文化があり、それは歩行者と運転者相互に敬い、また交通警察官の指摘には従順に従うことがこの街の文化を創ることである。